

スモン調査研究協議会疫学班昭和44年度  
(第1年度)研究の要約

昭和45年3月20日スモン調査研究協議会総会で報告

研究項目	内容	第1年度の成果と情報	評価と将来計画
1. スモン患者、全国実態調査の集計と解析	昭和42.43年全受診患者について年次別、季節別、地域別、性、年齢別、職業別および家族内発生状況などの把握と関連要因の検討	全国症例について各種の疫学現象を把握	①患者実態の概要を断面的に解明 ②今後は時間的発生状況の把握(届出制)、臨床所見の検討、患者の追跡調査
2. 多発地区(岡山、愛知、秋田)における疫学的研究	1) 患者発生状況の理論疫学的研究	①患者年齢分布の年次的変化を観察(いわゆる ②浸染度前進現象との対応)	①本症発生に関する疫学特性の部分的解明 ②今後は診断確定の本症新発生例についての疫学的検討
	2) 家族発生例(家族構成、患者発生の続柄発生時期、集積性など)、病院内多発例等について検討	①集積性の認知 ②潜伏期間の設定(1~3ヶ月)	1) 集積性存在の認知 2) 今後は集積患者の臨床的ならびに疫学的解析
	3) 各種の宿主要因、特に既往疾患(肺結核、その他の慢性疾患、手術歴、無菌性髄膜炎等)との関連性の検討	①30才以上の女性に多い ②やせ型、神経質のものに多い ③肺結核、腹部疾患等の手術歴をもつものに多い	①本症発生要因の一部解明 ②今後はその他の各種要因(特に社会経済的要因を含めて)の疫学的ならびに統計学的解析(多変量解析)
	4) 多発地区における環境要因(各種の農薬および殺虫、殺鼠剤、食品添加物、保健薬、抗生物質、重金属類特にタリウム、水など)に関して、患者尿尿の分析化学的検討および既往歴の調査	①水との関連(岡山井原地区) ②農薬との関連(有機燐製剤)	